

vol. 2298

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に入れて徴収しています)

今号の掲載内容 (掲載順)

- 第51回憲法記念日講演会
- 歩くことで知る沖縄があります。語ることで見える沖縄があります。
-PEACE ACTION 2023 沖縄平和行進-

第51回憲法記念日講演会

とき：5月3日 ところ：大分県教育会館多目的ホール

日本国憲法が施行されて76年となる憲法記念日の5月3日、平和憲法を守る会・大分主催「第51回憲法記念日講演会」が行われ、高教組からも憲法学習として参加しました。

植野妙実子さん(中央大学名誉教授:憲法学)を講師として迎え、「日本国憲法の平和主義と国家緊急権」という演題での講演が行われました。講演では、「平和主義は人権保障の前提であり、国民主権は人権保障のより良い手段であるから、自由や権利を保障することが最も大切なことである」「人権保障と権力分立によって権力を制限するのが憲法の役割である」ことから、自民党の憲法改正案は「自衛隊の明記」や「内閣への権限集中」を狙ったものであり、憲法の主旨に反しているし、法律レベルでの改正で済むものばかりである、と解説されました。ロシアのウクライナ侵攻についても、「戦争は始まったら終わりが見えないので、はじめないことが重要」ことを教訓とし、「日本国憲法の平和主義は一国平和主義ではなく、世界平和を願うもの」「日本国憲法の平和主義は抑止力論に与しない」ことを再確認すべき、と主張されました。

諸外国では憲法改正は行われているが日本では一度も行われていない、との自民党の主張に対して、諸外国での改正は国民の自由や権利を保障するための人権や統治権に関するものであり、日本国憲法は時代の先端に行く普遍的なものとして完成されているからこそ改正の必要がなかったのではないかと批判されました。また、「『愛せる国』になるためには、



政治不信がない、自分が政治に参加している、という気持ちを持つことではないかと訴えかけました。投票率の低下ばかりでなく地方議員の立候補者不足という形でも政治の魅力不足が顕在化してきた日本。講演の中で「立憲独裁」「立憲主義の空洞化」という言葉がありましたが、為政者が封建的支配者・独裁者になろうとすれば、憲法は国民を支配するのに邪魔なものとして化し、「行政府の長」「立法府の与党総裁」を兼ねる者が憲法改正を唱えたいくなるのかもしれませんが、民主主義国家の国政に携わる者として、憲法に基づいた政治をしっかりと行うことで、政治への信頼を取り戻すことを考えてほしいものです。

歩くことで知る沖縄があります。 語ることで見える沖縄があります。

— PEACE ACTION 2023 沖縄平和行進 —

とき 5月12日～14日

沖縄平和行進が開催され、大分県平和運動センターは、議長である高教組大野委員長を団長に約20名が参加しました。結団式では、大野委員長が本土代表として登壇し、連帯挨拶として大分県の弾薬庫問題を訴えるなど、沖縄平和行進を日本全国での平和運動につなげよう、という参加者全員の決意を高めました。コロナ前は、北部・中部・南部の3コース約5,000名の規模で開催していましたが、今年度は嘉手納基地等を巡る中部基地コースと、ひめゆりの塔等を巡る南部戦跡コースに約2,000名が参加しての開催となりました。南部コースは、白梅之塔など多くの「学徒」を含む戦争犠牲者を悼む戦跡を巡りながら行進します。戦争は、「敵の命を奪う」「自分の命を捨てる（覚悟をする）」ことで成立します。その「命の大切さを忘れさせる」波は、得てして権力者は最も遠いところに置きながら、子どもたちを含んだ一般市民を容易に飲み込んでしまうものです。基地問題に悩まされてきた沖縄は、今また台湾有事を名目として南西諸島への軍備・ミサイル配備が行われています。「戦後78



年」と言われますが、今もお「平穏な日々を迎えたことのない」「戦争と隣り合わせ」の状態が続いている沖縄の現状と、平和を希求する意味を改めて考えさせられる行進参加となりました。4時間の行進では、沖縄の基地問題の解決、そして世界平和を参加者全員で力強く訴えました。また、「5・15平和とくらしを守る県民大会」では、日米の軍事一体化と強化、沖縄の負担軽減を名目にした日本全国での演習・基地化など、平和主義、人権を取り巻く現状の訴えに続き、基地のない沖縄、平和な日本、戦争のない世界実現に力を尽くすことを誓う宣言を採択しました。

» 参加者の声 «

人生で初めて沖縄へ行ったのが1988年。ぼくはまだ20代で、主任手当拠出の「沖縄平和学習の旅」だった。豊泉荘で3回くらい事前学習会を生徒といっしょにやって海を渡った。当然ながら那覇空港は今よりも古くて小さくて、大分から沖縄への直行便があった。もしかしたら、と思って本部へ問い合わせたら、「ありました～」とすぐに送ってくれた。ぼくが35年前に書いたそのときの感想文。ぼくは若気の至りで「ブルーな午後」という文章を書いていた。正直、いま読むと恥ずかしいけれど、もひとつ正直に言えば、よく書いてい

る、そう思う。この若気の文章と、今回の感想文との比較対象から生ずる胸の内と躍動と虚無と責務と感嘆とを文化論として秋の教研でレポートすることをここで約束する。そしてもうひとつ。平和授業で使ってもらえる「ミニ芝居」のようなステージ演目を作ろう。そうだなあ、30分の舞台。生徒さんにもナレーション役として参加してもらえるような。そのあと司会の生徒さんが舞台をまとめ、質疑応答の計60分の平和教材。もちろんオキナワ学習。そのときは、呼んでください。もちろん謝礼一切ナシで。それがぼくにできる最後の恩返しになる。
(日田高校定時制分会 福田晃一郎)

お詫びと訂正

2295号掲載の「2023新規採用のみなさん」において、「岸田慧悟」先生の勤務校が「大分舞鶴」と記載しておりましたが、「大分商業」の誤りでした。ご迷惑おかけしましたことを深くお詫び申し上げます。